

●平成 29 年度一般前期試験(英語)講評

ねらい

大学で求められる基本的な学力を試すことを念頭に、センター試験とは異なる視点で総合的な英語力を問う。具体的には、長文の内容を素早く読み取り、その要点を日本語・英語で簡潔に表現する力や、未知の語彙を文脈の中で推測する力(或いは、語彙の説明がなされている箇所を的確に理解する)、自分の考えを英語で論理的に表現する力を試すことをねらいとしている。

全体講評【1】【2】

「ねらい」にある「要点を日本語・英語で簡潔に表現する力や、未知の語彙について文脈中で説明がされている箇所を的確に理解する力」を試す問題である。記述式問題の解答においては、「解答に書かれている日本語の意味」がよく理解できないもの(日本語の主語と述語の繋がりが不明瞭な解答や日本語で解答をしてはいるが、問題文の英文を直訳しているような解答)が散見された。日本語で解答を行う時は、答案に書いた自分の日本語を再度読み直して、主語と述語のつながりがおかしくないか、修飾語の位置がおかしくないか等の確認をしっかりと行うようにすることが必要だ。

また、英文による設問に関しては、解答する際に参考にすべき箇所が本文中にあるが、それを探す手がかりとなるキーワードは問いの英文にある。**問題文をしっかりと読んで解答を行う練習が足りていない。**英文の問いに関してどのように対処すべきか日常的に練習が必要である。

各設問について

【1】

問 1

(ア)全体的によく読み取れていた。正答率は 75%強。ただし、Some immigrants の some と don't speak English very well の don't ~very well の理解が不十分と思われる答案はかなりあった。

(イ)全体的によく読み取れていた。正答率は 70%強。文の流れに沿って読むという習慣がついていないと思われる答案がかなりあった。、because のコンマを無視した答案が目立った。

(ウ)

end up の誤訳が多かった。

(「結局～することになる」とするところを「終えてしまう」「やめてしまう」などとしていた)

speaking in an understandable way, but with lots of mistakes の部分のまとまりが読めていない解答が多かった。特に but 以下の部分を speaking との関連性を無視して訳していた。

このような間違いは下線部以外の文脈の中で読んでいないからである。下線部だけでなく文脈の中でまず大意をつかみ、下線部の細かな部分を読み取ることに着手すべきである。50%～60%の部分正解の答案がほとんどで、完全正解は非常に少なかった。

問2

全体的に問題はなかった。但し、少数の受験生が 4, 6 を誤答していた。本文を読めば簡単な問題なので、落ち着いて問題を解くことを勧める。

問3

特に問題なし。

問4

大半の受験生には問題はなかったが、少数の受験生が A と誤答していた。このようなミスは本文をしっかりと読んでいれば起こらない。

問5

答えの見つけ方に慣れていない受験生が多いと感じた。解答する際に参考にすべき箇所が本文中にあるが、それを探す手がかりとなるキーワードは問いの英文にある。具体的には、“skip” “still be able to shop” “without much trouble” がキーワードなので、段落④の For example からが参考にすべき箇所である。また、skip は他動詞なので、解答の英文では目的語が必要になる。問いへの答えとしては、英文法用語の articles (冠詞) が重要になるので、この語を解答に入れることが求められる。ちなみに、a や the が斜体字(イタリック体)であることを示すためには、下線を引くと良い。つまり、a や the は a や the のことである。完全正解は受験生の2割程度であった。準備不足のまま受験しても当然の結果しか出ない。

問6

自分の考えや意見を書いた答案が多かったが、それは誤りである。According to the article からわかるように、本文を基に答えることを求める問題である。また、疑問詞 how は手段や方法を問う意味である。つまり、海外に行かずに英語力を伸ばす方法は何か、本文から読み取ることが受験生に求められている。これに関連した箇所は、Conclusions の段落⑧である。我が家に居ながらにして、絶えず外国語に触れられる環境を作るという提案がなされているので、この箇所を参考に解答を作成すれば良い。完全正解は受験生の3割程度であった。受験生諸君には、常に英語に触れられる環境作りに取り組んで頂きたい。

【2】

問1

特に問題なし。

問2

特に問題なし。

問3

(ア)

walking or cycling during, but not before, learning の部分のつながりが読めていない。during, before は前置詞で learning が共通の目的語であるが、「散歩あるいはサイクリングの前でなく、その最中に」と誤訳するものが多数見受けられた。

foreign language words を単に foreign language と捉えていて「外国語の語彙」と正しく読んでいる解答は少なかった。

stick (動詞) は文脈でほぼ理解できていたようだが「定着する」と正しく答案に書かれたものは少なかった。

70%～80%の部分正解の答案がほとんどで、完全正解は少なかった。

(イ)

和訳の問題であるが、前半の Love it or hate it と、bout と mood の単語の訳を誤訳している受験生がきわめて多く見受けられた。前半と bout 誤訳の原因は文脈をしっかりと理解できていないせいだと考える。

例えば、「それを愛しているあるいは憎んでいる、身体的活動のボートはあなたのムードに強い影響を及ぼすことがある」では、前半の文と後半の文の繋がりが途切れている。これは、⑧の節の英文の内容と⑨の文の内容の繋がりがつかめていない点(⑧⑨も『運動』に関する文であること)と it の示している内容が、後方照応の bouts of physical activity であることができてないこと、さらに、日本文の訳の流れから考えて bout の意味(『一時的な期間』)は「ボート」になりようがないはずなのに、「身体活動のボート」というよく分からない意味の訳文ができてしまっている。また、これは文脈とは関係ないが、Love it or hate it が Whether you love it or hate it, bouts of physical activity…の省略された形であるという文法項目を理解していない点も原因である。また、mood も日本語の中に入り込み「ムード」になっているが、「あなたのムードに強い影響を及ぼす」は意味的におかしい。Mood は多義語で「気分、心的状態」という意味がある。このように日本語に入り込んでいる英語の意味には気をつけなくてはならない。

いずれにせよ、文脈にそった和訳をしていれば、上記の例のような奇妙な和訳にはならない

(ウ)

和訳の問題であるが、この英文では、単語の意味がよく理解できていない受験生が多く見受けられた。まず exercise であるが、これも mood と同様に日本語の中に入っているが、

そのまま「エクササイズ」としては和訳にならない。ここでは、「運動」と訳すべきである。emerge は「出現する、現れる」という意味で、as はここでは「～として」という意味の前置詞である。さらに promising は promise の現在分詞ではなく、promising 自体に「見込みのある」という意味がある（形容詞）。overcome は「～を克服する」、depression は「不況」ではなく「～を憂鬱にする」の名詞形の「うつ病、意気消沈」の意味である。

単語、特に多義語の意味をさらに覚えていく必要があることを採点して感じて。

問4

特に問題なし。

問5

特に問題なし。

問6

ほとんどの受験生が正答できていたが、少数の受験生は 'runner's high' の説明文がどこにあるのか分からず、解答していなかった。高校で学ばない単語の説明をする問いの場合には、本文中に説明文がある。落ち着いて本文を読めば正答できる問題である。

問7

特に問題なし。

問8

ほとんどの受験生が誤答していた。According to the article で分かるように、本文中からどのようなことができるかについての問題である。ほとんどの受験生は自身の高校の経験を基に答えている。しっかりと問題文を読み解答する練習が必要である。

全体講評 【3】

大学入学後に必要となる英文構成法に基づいて、論拠・理由を示しながら自分の考えを論理的に英語で表現できるかを試した。

今年度は、語数を 200～250 語程度に減らした。しかし、例年出題している形式の問題であるので、対策はし易いはずである。今回も昨年と同じように、(1) 明確な構成を持った、複数のパラグラフから成る短いエッセイを書くこと、そして、(2) 問題 1, II の英文内容を基にして書くこと、を要求した問題となっている。

対策法としては、(1) 日頃から（日本語や英語の文章を）読むこと、(2) 読んだ内容に対して（批判的に）考えること、(3) 読んで感じたこと・考えたことを書くこと、を習慣化することである。これによって読解力や分析力が深まり、入試対策のみならず、深みのある学力（あるいは教養）が養えると期待される。高校の英作文の教科書は非常に良くできているので、英文を書く際参考にし、英語の文章構成を理解し、それに則って何度も小論文を書く練習をするとよい。

また、今回「答案作成についての講評」で指摘されている点にも十分に留意して小論文を書く練習をすることを勧める。

Positive points

Overall I was very impressed with most students grammatical control and accuracy of English. Most students were able to use a controlled group of conjunctions (and, but, so , or) and transitional phrases (in addition, furthermore, and another things is, on the other hand) to relate one sentence or idea to the next. Additionally most students' control of tenses and agreement between subjects and verbs was for the most part accurate. One final positive point about students language ability was the range of idiomatic phrases used to communicate their ideas this included things such as "a barrier to learning", "a wall to overcome", "made me feel welcome" and so on. Students were also able to write either directly - "let's take a look at" or "I want to tell you about" or indirectly, "another important factor is". Finally, a large majority of students had a basic idea about the shape of an essay, they attempted an introduction, body paragraphs and conclusions. The best students were also able to relate their own experiences to the question.

Areas for improvement

The main areas for improvement include:

- Students need to carefully check that they are directly answering the question prompt - many students failed to directly respond to the key word "effectively study".
- A large number of students overly quoted parts of the reading passage to fill their word count.
- Only a small number of students effectively used their own opinions or ideas to provide sufficient supporting sentences in the Main Body Paragraphs.
- Many students did not write in an essay format including an Introduction Paragraph, at least three Main Body paragraphs, and a Conclusion Paragraph. The first line of each paragraph should have been indented at least 5 spaces.